

第1回 さがみはら都市経営ビジョン策定委員会 会議録

《会議録》

会議名	さがみはら都市経営ビジョン策定委員会	
事務局	企画部企画政策課	
開催日時	平成16年6月23日(水) 19:00~21:30	
開催場所	橋本公民館 中会議室	
出席者	委員	8人(辻委員、村尾委員、吉田委員、西本委員、赤柴委員、津川委員、日原委員、松田委員)
	事務局	6人(宮崎部長、高橋課長、服部主幹、田辺副主幹、六反主任、水野主事)
	その他	3人(さがみはら都市みらい研究所 富岡主査、北村主任、池田主事)
傍聴者数	0人	
会議次第	<p>(1)委嘱状交付(小川市長あいさつ)</p> <p>(2)自己紹介(各委員及び事務局の自己紹介)</p> <p>(3)設置運営要綱説明</p> <p>(4)委員長・副委員長互選 委員長:辻委員、副委員長:野中委員</p> <p>(5)傍聴取扱い</p> <p>(6)審議</p> <p>①経過・資料説明 ア 取組の経過(昨年度まで・今年度以降) イ 行財政運営対策会議報告書の概要</p> <p>②今後のスケジュール</p>	

《審議経過》

<p>(1)行財政運営対策会議報告書についての質疑応答・意見交換</p> <p>辻委員長:本日は、行財政運営対策会議報告書に対する質疑応答や意見を中心に審議されたい。          今回は本日出された意見を踏まえて、新たな視点や疑問点を委員皆さんにまとめていただいた上で、今後どのように策定委員会で都市経営ビジョンの検討を進めていくかを決定していきたい。</p> <p>松田委員:財政見通しについて、現在津久井3町との合併協議が行われているが、合併を想定した財政見通しが無いのは何故か。また、合併した場合、財政の状況はさらに悪化するのではないか。</p> <p>事務局:本報告書は昨年度作成されたもので、本格的な合併協議に至っていない時点のものである。また、合併を想定した財政見通しは今後合併協議会の中で行っていく予定である。本市は津久井3町に比べ財政力は豊かであるので合併したとするとさらに厳しくなることが考えられる。</p>
--

松田委員：報告書では、市政運営への市民参加を述べているが、端的に言って住民投票を取り入れる意思はあるのか。

私は今まで自治会活動に携わってきたが、かつての町内会が行政へ要望していくという構図とここで示している協働の制度づくりの違いを整理し明確にしていかないと、市民は従来のお上意識から脱却できないのではないか。

また、行政が何か事業を実施するからには、メリット・デメリットを考えていく必要がある。とりわけ行政はプラス面は言うがマイナス面は言わない姿勢が見受けられ、それでは市民は納得しない。事業実施によるマイナス面を示した上で、市民の意見を聴いてこそ市民参加の意義がある。

日原委員：都市経営ビジョンをつくるのは簡単だが、実現するのは難しい。私は策定委員会の中で問題点を指摘する場合は代替案を併せて示したいと考えているので、次回までに考えをまとめたい。

報告書に対する質問だが、重点プログラムにある「都市内分権の研究—地域への総合的な権限を移譲した行政機構の設置等」にはコストがかかるが、どんなプロセスで検討され、どんなアイデアなのか。

事務局：都市内分権の研究は、現在、さがみはら都市みらい研究所で市民との共同研究を通じて来年度以降どう進めていくかの検討を行っている。主には総合行政センターの設置や地域の課題は地域で解決するしくみの構築などの検討を行っている。

辻委員長：国でも合併に伴う地域自治区の法制度の整備が進められており、今後はソフト中心のまちづくりが議論の焦点になってくると思われる。

津川委員：報告書にある財政見通し（収支のバランス）は、誰がどのように判断しているのか。予算は誰が決めているのか。「入りを計って出づるを制す」という言葉があるが、この財政見通しからは、今後収支をこうしますという姿勢が感じられない。市としてこれだけの厳しい財政状況をどのように受け止めているのか疑問である。

事務局：この財政見通しは、現状の推移のまま何も対策を講じなければければこうなるという現状理解を伝えるためのデータであり、中長期的な視野に立った財政の維持健全化に向けた意思判断は、都市経営ビジョンの中で打ち出していきたい。

また、実際の予算編成では、赤字にならないよう経常経費の削減や投資的経費の精査を行うなど対応を図っている。

辻委員長：予算編成権は市長にある。

村尾委員：説明資料に示される財政状況のグラフは、市民参加で示すデータとしては分かりにくく、失格である。例えば歳入歳出の規模や他市との比較、数字の内訳など予算の概要が分かる資料を最低限提示すべきである。また、こういう財政の見通しを見ると大抵は法定により義務付けられる扶助費の伸びが問題視されるが、そこで何もしないのではなく、国に対し市長自らが交渉し、制度を変えていくというぐらゐの発想がこれからは必要である。

赤柴委員：報告書にある「都市内分権の研究—地域への総合的な権限を移譲した行政機構の設置等」は現在検討している合併を意識した取組みなのか。また、都市経営ビジョンの策定スケジュールでは、市民アンケート調査が8月に実施される予定となっているが、調査票の素案は現時点でできているのか。この策定委員会で内容を検討しないのか。

事務局：市民アンケートは市が主体的に実施していくもので、現時点では、市内に居住する 20 歳以上の市民 3,000 人を対象としていきたいと考えている。アンケートの素案については、次回の策定委員会に提示していきたい。

西本委員：本市が「経営」という視点に立った場合に、「選択と集中」を誰がどういう部分で実践していくのかが重要なポイントとなる。

成果主義とは、一般的に従業員個々の業績を示す場合が多いが、コストパフォーマンスの視点で事業の成果を考えていくことが必要である。

また、ここでの最大の課題は、パートナーシップが市民に理解されるためには何をどのようにしたらいいのかを議論することにある。

自治会など従来からの非常に大きな組織で、単体として見れば意欲的に活動されている自治会も多いが、真にパートナーシップが理解されているとは言い難い。

吉田委員：この報告書を見る限りは、都市経営ビジョンというよりも、リストラビジョンである。出されてくるアウトプットからは内向きな印象を受ける。そのようなテーマで取り組むならば、NPM 理論とは切り口が違うのではないか。

さらに、都市経営ビジョンという用語を使うからには、もう少し夢のあるものでなければならない。そうしないと、我々（委員）は、行政のリストラの片棒を担ぐ役回りになってしまう。外部の意見を入れないと内部改革が進まない状態の組織ならば、到底都市経営ビジョンなどはできないのではないか。リストラを行うのであれば、他の表現に改めるべきである。

辻委員長：パートナーシップに対する市民への理解度について考えていくことは非常に重要であると思われる。

都市経営ビジョンを夢のあるものにしていくためには、どうやって努力目標を提示していったらいいかを議論すべきである。

村尾委員：市民が参加しても経営ビジョンに意見が反映されず、この策定委員会が単なる市民のガス抜き程度に扱われるのであれば、我々としては退出せざるを得ない。

美辞麗句でなく、500 万円でもいいからこの策定委員会の中で予算枠を持って事業を決める（例えば駐輪場の市民運営）など、行政が策定委員会の提言に対して確約するものがなければ何のための市民参加なのかわからない。

辻委員長：この報告書は抽象的な内容としては良くできているが、今後は、どれだけ実効性が挙げられるかが大きなポイントとなる。

特に、報告書の論理構成を見ると、市の厳しい財政状況から始まっているが、アウトプットの新たな行財政運営の方向性では、財政改革の比重が低く、市民とのパートナーシップの視点が加わっているため、考え方の再整理が必要である。

また、合併との関連性については、まずは相模原市単独のことをベースに議論すべきである。合併を想定した財政見通しについても、自主財源は確かに厳しい状況は想定されるが、地方交付税を見ると短期的には良くなることも考えられ、動向は予測しづらい。

## (2)会議結果の公開について

事務局 : 本委員会の会議結果については、市のホームページ上で公開していきたいと考えている。他の審議会の状況を見ると、委員名簿(出欠)は公開しているが、意見や質疑応答の部分は氏名を載せていない。

村尾委員 : それでは責任が伴わない。政府の審議会では意見や質疑応答の部分全てに委員名も公開されている。発言の要約でもいいから、委員名を明らかにして会議録を作成すべきである。

事務局 : 次回の策定委員会の開催通知に会議録案を同封するので訂正があれば連絡してほしい。

## 《決定事項》

●次回までに、各委員が今後の都市経営についての課題や考え方をまとめてきた中で、今後の議論の中心となる視点や進め方を検討する。

●会議録を市のホームページで公開する。公開する内容については、事務局でまとめたものを委員により確認作業を行い、委員名を明記すべきか否かを含めて委員全員の承認を得る。

## 《さがみはら都市経営ビジョン策定委員会委員名簿》

出欠	氏名	選出区分
出	辻 琢也	学識経験者(政策研究大学院大学)
出	村尾 信尚	学識経験者(関西学院大学)
欠	野中 保	団体推薦(相模原市自治会連合会)
出	吉田 修一	団体推薦(相模原商工会議所)
欠	柴田 正隆	団体推薦(相模原青年会議所)
出	西本 敬	団体推薦(相模原ボランティア協会)
出	赤柴 美重子	公募委員
出	津川 恒久	公募委員
出	日原 一智	公募委員
出	松田 宏	公募委員

## 《事務局名簿》

出欠	氏名	役職
出	宮崎泰男	企画部長
出	高橋誠司	企画政策課長
出	服部裕明	企画政策課主幹
出	田辺雅之	企画政策課副主幹
出	六反政和	企画政策課主任
出	水野誠悟	企画政策課主事